

滝沢市議会の現状と課題

「議会フォーラム」と「議会報告会」で、ご意見をいただきました。

必要な議員定数は

今後、更に議会評価の質を高め、より市民に密着した議会活動を行うためには何が必要か、議会の中でどう議論していくか。

「議員定数」については、次のような議論を行いました。

●現在、課題解決に向けた調査研究を行う「常任委員会」の数は3委員会、それぞれ6、7名で構成。

●今後、より高度な議論を行い、複数の調査を同時並行で行うためには、1委員会「7、8名」が必要である。

めざす議会像

図①のとおり、国の方針に沿った全国一律の行政サービスが各地で展開されてきた時代は、「方針に沿った、無駄のないサービスが提供されているか」という監視の役割が、議会に求められていました。

しかし、地方分権が進んだ現在では、独自の行政サービスが求められる時代です。

近年の議会には、従来の役割に加え、行政への「提言型議会」の転換が必要となっています。

議会の改革は

市議会では、政策提言型議会の実現をめざす中で、さまざまな改革を進めています。

具体的には市民の声を聞くことを意識した「議会報告会」や「各種懇談会」の開催、**変化に対応**することを意識した「通年議会」の導入、また**論点を明確に**することを意識して、議場での質疑の際に「市当局に反問権を与えました」。

これらの取組みを今後継続して実行することをルールとしたものが「議会基本条例」です。この条例は、議員自らが発議し、市民の皆様とお約束する形としました。

時代の流れと議会の役割

	時代背景	求められる議会の役割
従来	・国等の方針により、全国一律の行政サービスが展開	・方針に沿った無駄のない行政サービスが行われているかの監視 「監視型」が中心
近年	・地方分権により、各地域の特性を活用した、独自の行政サービスが求められる	・無駄のない行政サービスが行われているかの監視 + 地域の特性を活かすため、行政サービスが「市民の声を十分に反映したものであるか」の監視 + 政策は行政だけに任せず、議会も市民の声を聞き、上記が不十分な場合は議会が提言 「提言型」議会へ

滝沢市議会独自の「議会評価」

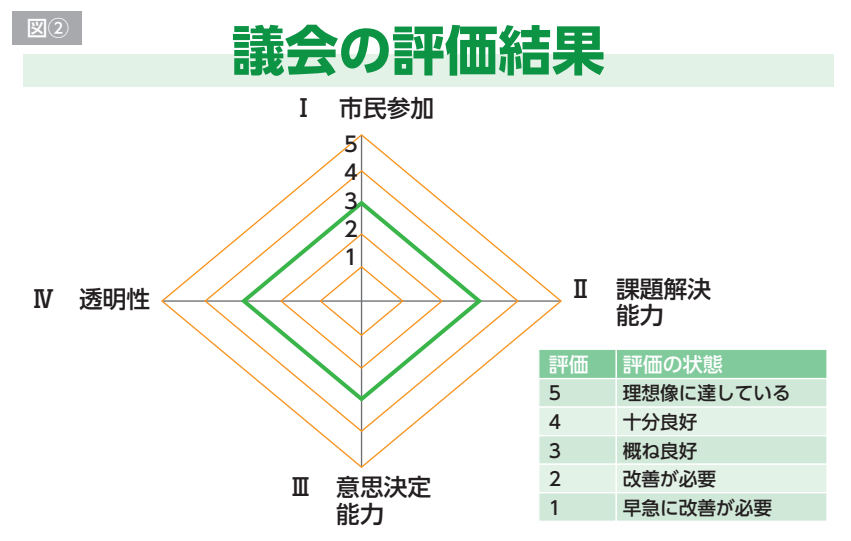
議会評価がなぜ必要か

これからの時代は、市民の求めていることを行政が実行しているかどうか、議会自ら市民の声を聞き、監視し、場合によっては政策提言等も行う「提言型議会」をめざしていかなければなりません。

このように、議会の役割がより重要になってきていることから、議会の仕事ぶりを自ら評価することとしました。

議会評価の結果

26年度は「市民参加」「課題解決能力」「意思決定能力」「透明性」の4つの項目をそれぞれ5段階で評価しました。



今後進むべき方向性

「監視型」であれば、「課題解決能力」「意思決定能力」「透明性」の4つの項目をそれぞれ5段階で評価しました。しかし、「提言型」をめざす以上、なお層の改善（4や5への到達をめざした活動）が必要であることを示しています。今後力を入れていかなければならない分野が、議会評価を通じて明らかとなりました。

「議員報酬」の適切な額は？

報酬額の検討

- ①本会議、委員会、議員派遣における議員活動
- ②協議又は調整の「場」における議員活動
- ③議会基本条例に規定する活動
- ④議会選出の公職としての職務
- ⑤上記①～④に付随する調査研究その他の活動
- ⑥市主催行事等への参加
- ⑦市民要望・市民相談に応じる活動
- ⑧その他の活動

「通年議会」導入後の議会・議員活動の実績から、適切な報酬額を算定。

実績に見合う、適切な報酬額は…
329,000円
【現行:293,000円】

図③

必要な議員報酬は

議員定数の議論と同時に、「議員報酬」についても次のような議論を行いました。

●以前は、議会の会期中である3月、6月、9月、12月を基本として活動してきた。

●変化が激しい時代では、常に議会も対応できるように必要があるため

「通年議会」を導入。その結果、議員の活動量は大幅に増加した。実際当議会で、以前に比べて会議の回数は「1.8倍」に。このことから、議員の「専業化」の議論は、今後避けられない。専業化となった際、それに見合う報酬でなければ、実態との整合性がとれなくなり、結果議員のなり手不足が想定される。

議員報酬の結果、「提言型議会の実現」を前提とした場合、あるべき議員報酬は「現状からの増額」が望ましいとしました。

具体的な金額は、全議員のこれまでの活動実績から算出しました。次に、その結果を、市長の報酬額に照らし合わせて積算いたしました。



意見を出し合う会場

今後、議会の成果を市民に確認していただきながら、意見交換をしてい

議会改革を市民とともに考えました

市民と語る議会フォーラム

～ワールドカフェで101人の活発な意見が～

議会報告会 -おでんせ会議-

～13会場20自治会で194人が意見を出し合う～

自治会名	開催日	会場
いずみ菓子 ユウク	5月24日	いずみ菓子ユウク集会所
滝沢ハーク	5月26日	ハーク集会所
鶴岡南	5月27日	鶴岡地区コミュニティセンター
元村中央 元村東	5月28日	滝沢ふるさと交流館
川前 菓子 南菓子 長根	5月28日	滝沢勤労青少年ホーム
大釜上 大釜南	5月29日	大釜地区コミュニティセンター
南一本木 北一本木	5月29日	一本木地区コミュニティセンター
小岩井	5月29日	小岩井地区コミュニティセンター
鶴岡中央	6月1日	下鶴岡集会所
あすみ野	6月1日	あすみ野コミュニティホール
篠木 大沢	6月2日	篠木多目的研修センター
元村北	6月3日	元村集落センター
滝沢ユウク	6月3日	ニューシビックセンター

5月24日から6月3日まで、市内13会場で開催された議会報告会を開催しました。議員が3班編成で各会場を訪問。今年はおでんせ会議」と銘打って、参加者が気軽に意見を言える雰囲気づくりとして、初めてワークシopp形式で行いました。5～6名で一つのテーブルを囲むワークシoppでは、「滝沢市議会の現状と課題」の報告に続き、提言型議会や議員の定数・報酬について意見交換をしていただきました。寄せられたご意見をしっかりと受け止めて、今後の検討に反映させてまいります。

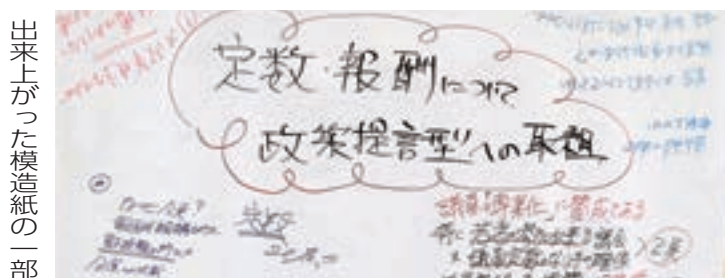
提言型議会について

- 政策について議論し、しっかりと対案を出せる議会に。賛否だけではだめ。
- さまざまな団体に足を運び、多様な声を吸い上げ、提言に反映してほしい。
- 提言型議会に賛成。そのためには議員の専業化を。
- 議会は、提言型でなくても良い。従来の監視型で可。



議員の定数・報酬について

- 現在の報酬では、副業がなければ食べていけないのでは。専業化し、報酬を上げるべき。
- 専業化に賛成。特に若者が参加できる議会、議員のなり手の確保。報酬を増額し、「職業」として市民の多くの意見を聞くために活動していただきたい=議員のレベルアップ。
- 通年議会となり、専業化は分かる。そのため報酬増も理解できる。だが、通年議会の成果は？ 外部評価は参考で、市民の評価が必要。
- 議員の活動が見えない。
- 財政難の折に、なぜ今更報酬の議論なのか？



出来上がった模造紙の一部

議員の定数・報酬について

- ・若い人たちも議員になるために報酬は上げた方が良い
- ・現在の定数で効果的な委員会活動ができるか疑問
- ・議会評価で実績を示すのは良い
- ・現状の額は副業としてしか考えられない金額
- ・これらの議員は専業でないとこなせないのではないかと
- ・定数を減らしすぎることは疑問
- ・財政面から「報酬増」の際は「定数減」とセット
- ・定数と報酬だけではなく、全体を見て判断が必要
- ・安いと思うがアップ時のリスクは大きい
- ・議会報告会のテーマにすべき
- ・市制移行の時に上げないと言っていたはず
- ・選挙後に改選議員が考えるべき
- ・追認型がまだ残っているので増の意味はない
- ・増は時代の流れに逆行する
- ・議員はボランティアでもよい



議会に期待する(感じる)こと

- 激励を含んだコメント
- ・しだいに市民に近く感じてきた
- ・追認型だと思っていたが、変化していると感じた
- ・干支議会のアイデアが良い
- 提案などを含んだコメント
- ・市民、議会、行政の三者で懇談会をやっては
- ・夜間会議、休日会議等のアイデアを
- ・フォーラムの内容は一般市民にも周知を
- 更なる議会の努力を求めるコメント
- ・市民参加を増やし、もっと市民の声を聞いて
- ・各委員会が何をしているのかわからない
- ・自己評価「3」は甘く、要望しても反映されず、結果いつも同じ要望をしており、進まない

